

学令和4年度 学校経営方針

令和4年(2022年)4月1日

国立市立国立第七小学校

校長 小畑 行広

一学校教育目標一

かしこく

◎やさしく

げんきよく

(◎印 本年度重点目標)

1. 学校経営の基本理念

コロナ禍の中、私たちの生活は新しい生活様式への変革を余儀なくされ、極小のウイルスに対して、こんなにも無力な現状となるとは思いもよらなかった。しかし、これまで人間が獲得してきた英知と献身的な取組により、試行錯誤を繰り返しながらも収束に向かって歩みを進めようと懸命に努めている。私たち国立第七小学校においても、子供たちの安全と安心を第一に学校生活と学びの保障を掲げながら、教職員の力を結集した「チーム七小」として、少しでも前に進むべく努力と検討を重ねながら前進を続けている。

本校は、「未来を自ら切り拓く力を、子供たちに身に付けさせる学校」を学校経営の基本理念としながら、全教職員が目の前の児童を大切に、多様性を認め、それぞれがそれぞれの生き方を目指すことができる資質や能力を育成していくため、本校に設置されているすべての学級・教室において、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を推進してまいりたい。

また、今年度においては、昨年度までの重点目標である「かしこく」から、発展的変更として「やさしく」に舵を切る。本校児童のもつ礼儀さや下学年に対する優しい姿勢等を土台にして、特別支援教育に係る「特別支援学級 くるみ学級」、「特別支援教室 はばたき」、今年度から設置された「きこえ」を合わせた「きこえとことばの教室」が設置されている学校として、表面的な優しさだけでなく、「真のやさしさ」を学校全体で深め共有し、本市が推進するフルインクルーシブ教育の一つの在り様を模索すると共に、本校の存在の意義を高めていくことを目指す。

校内研究においても、「真のやさしさ」を追求していく上で、心の教育が鍵となることから、特別の教科・道徳を授業研究の軸として学び、児童はもちろんのこと、保護者や地域を含めた「心のバリアフリー」の土台となる心の教育について教育活動全体で深めていく。また、開校50周年の佳節の年であることを契機として、これまで本校を陰に陽に支えていただいている、「見守り会」をはじめとする地域の皆様への感謝と地域貢献の心情を更に高めてまいりたい。

そのためには、本校の教職員のそれぞれがもつ力や専門性を発揮しながら、ユーモアのある対話が弾む明るく楽しい職員室であることにより、本校の児童も明るく楽しい学校生活となることをお互いに確認し合っていきたい。また、子供たちの姿や行動が、そのまま私たち教職員の姿となり、行動となることをお互いに理解し、私たち教職員一人一人を映し出す鏡として、子供たちの日々の成長をよく見取り、様々な場面に応じて、適切な価値付けを行うことができるよう、私たち自身の成長も目指していく。

最後に、本校の強みは、目の前の一人の児童を大切にした学校運営・学級運営を行うことができる学校だということである。つまりは、教職員の一人一人が本校の子供たちのために必要なことをそれぞれの立場や役割において考えると共に、必要な手立てを講じていくことができるという「自分事として」取り組むことができるのが、本校の教職員である。

年々、新しいメンバーも加えながら、この強みを全教職員が共有し、健やかでしなやかな心と体をもって「今、目の前にいる一人の子供に必要なこと」を学習面でも生活面でも実践し、「未来を自ら切り拓く力を、子供たちに身に付ける学校」として、更なる発展を目指していく。

2. チーム七小の基本の姿勢

(1) 授業力の向上を常にめざす。

- 校内研究以外に、教員としての自身の専門性を見つめ、研究・研鑽して、「楽しく、分かる授業」を創り、成果も共有していく。
- 研究奨励校として、本校児童の課題の基に、特別な教科・道徳の授業改善を通して、育てたい児童像を明らかにし、目指すゴールイメージをもって研究を行う。
- 「毎日が授業参観・公開授業」として、誰もが見合える環境づくりに取り組む。

(2) 信頼ある開かれた学校づくりに努める。

- 児童を丁寧にかつ適切に見取り、保護者に寄り添う支援により信頼関係を築く。
- 自らをプロ集団の一員であることに誇りをもちつつ、謙虚であることを忘れない。
- 自らが担当する職務や立場において、適切な情報発信と共に、連携した行動に努める。
- 学校での児童の体調不良、怪我等については慎重に対応すると共に、直ぐに報告・相談する。保護者への連絡は、子供の口ではなく、必ず養護教諭や担任が伝える。
※首から上の怪我(歯を含む)には特に配慮をし、迷ったときには、受診を勧める。
※必ず、保護者に連絡し、管理職への「ほう・れん・そう」を確実に行う。
「多忙」や「休暇」等による連携不足等は、理由にならないことを忘れない。

(3) 子供の世界や感性を尊重する。

- 「子供は、一人の人として、成長の過程にある。」ことを大切にする。
- 一人の人として、子供のもつ世界や感性を認め、教職員のもつ世界観や感性の押し付けにならないように気を付ける。
- 子供のもつ力や可能性を信じ、どこまでも指導・支援していく。

(4) 今あるものを常に見直し、改善につなげる。

- 教育活動実施後の反省として、本校に必要と判断したよいものは継続し、改善が必要なものは改善案を提示して反省を行う。
- 各反省の時点で、次年度の計画に活かし改善しておくことで、年度末の業務軽減になる。また、本校の未来への見通しをもつことになる。

(5) 未来を志向し、共有する。

- 開校50周年の年として、次の60周年に向けた5年後・10年後の本校を創造し、見通しながら、中・長期展望を教職員で共有する。
- 学校課題や学年・学級課題を自分事として捉え、様々な取組を検討し、提案ができる、よりよい七小創りに貢献できる教職員としての自覚をもつ。

目の前の子どもを大切にした学校運営が展開されている本校において、私たち教職員のチームとしての更なる団結と各人の成長を図りながら、児童も教職員も「学校に来るのが楽しい。」と実感ができる国立第七小学校を目指したいと思います。チーム七小として、50周年の今年度から次の60周年の年に向けた、新たな船出をするよりよい令和4年度の活動を、「協働と共有」を合言葉に共々に進めていきましょう。

これからも、先生方のもつ力を最大限に発揮できるような学校経営に努め、前進してまいりますので、どうぞ、よろしく願いいたします。